

「ベトナム社会科学院・ハノイ国家大学サマースクールプログラム 参加報告書」

京都大学法学部2年 東上菜々子

・留学・大学での学習・国際理解への意欲の派遣後の変化

参加前から長期留学をしようかどうか考えていたが、今回の派遣で留学について具体的に考えることができるようになった。交流したベトナム人学生は日本にとっても興味があって、日本語を勉強しており、日本への留学を強く望んでいた。しかし、ベトナムでは留学は奨学金をもらって行くものだとの考えが普通であり、また、奨学金の獲得もとても難しそうだった。それと比べ、日本は様々な奨学金制度があり、私費留学という選択肢もあることから、留学を容易に考えられることのありがたさを感じ、機会があるのならと積極的な気持ちになった。また、メンバーの中には1年間の留学経験者が2人おり、留学先の授業や生活について具体的な話が聞けて、実感が湧いた。その2人の英語力や授業中の発言の積極性は他のメンバーよりも高く、留学の成果は大きいと思った。

ベトナムでは日本が非常に好意的に思われていることや、ベトナムがいかに発展しているかなど、現地へ来て初めて分かったことが多く、やはり、現地での国際交流の意義を実感した。特に、学生が一生懸命に日本語で交流しようとしてくれ、嬉しく思った。

今後は交換留学や学生との交流を含むプログラムについて具体的に考えていこうと思う。

・海外での経験

私にとって初めての東南アジア滞在であった今回は、驚きの連続だった。バイクの量や習慣の違い、気候の違いなども多くある。

出発前にベトナム語をみんなで少し勉強していったが、レストランやホテルでは英語でコミュニケーションをとることができ、大衆食堂に行ったのは現地学生と一緒にあったりと、ベトナム語を使う機会があまりなかった。実際に使ってみても発音が難しく、通じない場合も多々あった。途中からはベトナム語を話すことを少し諦めていた部分もあった。しかし、大学生が、日本語を熱心に勉強してうまく話す姿や、最後の交流会での日本語でのプレゼンテーションをしていた姿を見て、その気持ちを改めた。また、日本の大学生は第二外国語を疎かにしすぎていると思った。

また、日本に世界複合遺産は存在しないので、それに指定されているチャンアンへ行くことができ良かったと思う。

・プログラム内容

プログラムの大部分を占めているのは、日本語の授業への参加と特別講義である。日本語の授業へ参加するというのは、自分のためにならないように思えるかもしれないが、日本語について日本では考えないようなことを質問されるのでそのようなことはない。また、自分が他の言語を学ぶ時と異なって、外国語の教授方法も観察することができ、面白かった。日本語を学ぶ学生との交流によって、ベトナム人の習慣や考え方などについて知ることができ、また、日本について伝えることもでき、有意義であった。特別講義は、ベトナムの家族と結婚、社会問題、文化史、言語についてであり、新しい発見が多くあった。

その他、ベトナム滞在中に実地研修でドンラム村とチャンアンへ行った。どちらの村にも特徴があり、非常に印象的であった。

・進路への影響

私は将来の夢や就きたい職業がまだ決まっておらず、海外へ行く際や何かのイベントに参加する際にはいつも、将来やりたいことを決めるヒントを得ようと考えている。目標があれば自分のモチベーションがあがり、留学が役立つならばしたいからだ。ベトナム人学生に将来の夢を尋ねてみると、研究者や日系企業で働くなど既に明確な将来像を持っている学生が多くいた。彼らをうらやましく思うと同時に、自分も将来の目標を持ちたいと強く思った。特別講義でベトナムの現代社会を他の東南アジア諸国と比較する場面があったが、そこからさまざまな興味が沸いた。また、日本語教育や日本に関する教育が熱心に行われており、海外での教育に関わってみたいと思った。今回のSENDプログラムは、国際的な環境の中で働きたいと考えている私にとってとても収穫の多いものであった。